

『祈りにもとづく使徒的共同体とは』

# 孤立からつながりへ パート2

## 1 前回の振り返り

第4回には約70名のみなさまにご出席頂きました。始まりの歌「ともにあつまる」に続き、改めてミッシヨン2030について、配付資料に従って事務局よりご説明いたしました。

また、第3回分のニューズレターを使って、簡単に前回の内容を振り返りました。

次に、今春より本格的に活動を始めた「ウエルカムテーブル」の発足の経緯説明(東京教区の2019年信仰年に策定された方針の一つ)と活動への誘いを、代表のスマスさんとメンバーの茂木さんからして頂きました。その結果、3名の方より参加の申込みを頂きました。

## 2 グループ対話、発表

前回のワークショップにて作った九つのテーマ毎に分かれて、孤立を防ぐ工夫について、更に話し合っただけではありません。

### ① 受洗前後

代父母経験者が役割を学び合い、問題を分かち合い、新受洗者との良い関係を構築することを目的とする

### ② 居場所

初めて来た人が入りやすいように、教会内の施設や行事、活動がわかる掲示版、活動グループの一覧表の配布、教会活動に関する情報共有が必要。

### ③ 声掛け・挨拶

ウエルカムテーブル、献金活動の方々に挨拶されると自分も挨拶を返すし、認められた気がしてうれしい。活動を始めようとしても、歴史の古いグループは往々にして閉鎖的に入りづらいので、新しい活動グループを積極的に立ち上げてはどうか。

### ④ 趣味

たまたま歌が好きな人が多かったため、音楽による慰問活動のアイデアが出された。町田教会の信徒の方々からは、ウエルカムテーブルやミサ後の100円ランチなど、町田教会の模様をご紹介頂いた。

### ⑤ カウンセリング

聖書(例えばルカ24章13節)から学ぶカウンセリングを目指したい。日曜サロンの一角でカウンセリングができれば、瞑想や黙想が

「代父母の会」を立ち上げたい。

自由にできる場が教会にあるとよい。

### ⑥ 待つ

信頼し、忍耐し、希望と喜びをもって、祈りの基本であるロザリオの祈りで待つ。辛い時にこそ祈りによって強められる。タイムラグはあるがすべてが解決されていく。

### ⑦ 祈り

ミッシヨン2030「祈りを深める」の星野さんに、祈り関係の活動リストを作成し、ご説明頂き、既に多くの活動が行われていることがわかった。まずは既存の活動を尊重し、今後について考えていきたい。

### ⑧ 分かち合い

日曜サロン(ヨセフホール)で分かち合いをすれば、オープンな雰囲気なので参加しやすい。

### ⑨ インターナショナル

多様性の中の一致、インターナショナルミサの継続の繋がりを求めたい。同日午後3時より開催されるリビンゴロザリーにも参加をお願いしたい。↓多くの皆様に参加頂きました。

## 3 英主任司祭の総評

新受洗者を導く守護の天使役を務めるとの代父母の天

本来の役割を、「代父母の会」によりしっかりと見直すのは良い。

教会内の良い集まりは多いのだが、情報がうまく伝わらない。そのため、信徒による入門講座も思うように人が集まらないところがある。情報共有の仕方を工夫する必要がある。

声掛け、挨拶は気が小さいとしづらいが、ウエルカムテーブルで人に立つてもあれば挨拶しやすい。当教会の信徒であることを示すカードやバッジなどのグッズを使う手もある。教会内でカルト宗教の勧誘をしている事例も報告されているが、彼らの声掛けの勇氣は大したものである。現代人の趣味は多様化しており、共通の趣味を楽しむ

むというよりは個別の趣味を楽しむ傾向にある。

新宗教についても、一對一のカウンセリングを行う。宗派が人数を伸ばしている。カウンセリング、分かち合い、傾聴などは、日曜サロンや水曜ティーサロンの一角で気楽にできるとよいのではないか。

イグナチオ教会は信徒が多く多国籍なのは大きな恵みである。私自身も英語のミサや告解を聴く機会を持てた。言語のバリアはあるが、その垣根を低くして繋がりを持つていくことが大事ではないか。

※次回、軽食を持参頂き、食卓を囲みながら小グループで楽しく語り合いたいと思います。

### ※次回のお知らせ

12月29日(日) 午後1〜3時、ヨセフホール。

『祈りにもとづく使徒的共同体とは』

年のおわりに...

## ワークショッププランチ会

お話し 英隆 一朗主任司祭

「共同体を生きるあなたに」

詳細は、チラシ、ポスター、教会報マシスをご参照下さい。

い。

\*当日のメリエンタはお休みです。各自軽食おにぎり、サンドイッチなどを持参ください。